



東白川小だより

令和4年8月29日(月) №6

校長 桂川 辰也

「生きてさえいれば」

皆さん、こんにちは。新型コロナウイルス第7波は依然として猛威を振るっていますが、今日ここに皆さんの元気な顔を見ることができて、本当に嬉しく思います。この夏休み中、東白川小学校でも皆さんの仲間の感染が確認されました。幸い、重症化したケースはありませんでしたが、油断は出来ません。基本的な感染防止対策の考え方は、変わっていませんので、マスク着用、部屋の換気、手洗い、アルコールによる手指消毒を場に応じて徹底していきましょう。



さて、一学期終業式での「チャンスがあればやり直したいことがある人？」という質問と、自分の脈拍を調べたことを覚えていますか？

校長先生は、「チャンスがあれば」＝「生きてさえいれば」だと考えています。ところが、やり直す自分を「カッコ悪い」「面倒くさい」と思ったり、やり直している他人を「今更遅い」「カッコ悪い」と冷ややかな目で見えたりする人が少なくないとも感じています。自らチャンスを放棄してしまう人が意外と多いということです。「七転び八起き」「失敗は成功のもと」などのことわざが昔からあります。死んでしまえば、やり直しは出来ませんが、生きてさえいれば何度でもやり直しは出来ると言うことを、この二学期のスタートに当たり皆さんと確認したいと思います。

この二学期も「命」と「笑顔」を最優先に失敗を怖れず自分の目標に向け頑張りましょう！
生きてさえいればやり直しは何度でも出来ます！！

始業式での校長の話です。子どもたちに望む以上、私たち自身も、失敗を怖れず挑戦する姿勢を大切にします。この二学期も、運動会、修学旅行等の行事、授業や登下校をはじめとする日常活動、子どもたちを鍛える場はたくさんあります。「予測困難な時代」と言われる現代を、たくましく生き抜いていく子どもたちを育むために精一杯やらせていただきます。保護者や地域の皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた学校運営について

(オミクロン株の特性を踏まえ感染再拡大時に備えた学校の対応を含む)

(令和4年8月22日更新版)

■ 基本的な感染防止対策の考え方

- ・ 飛沫感染と接触感染が主な感染経路
 - ※ 大半は飛沫感染、一部接触感染により拡がる
- ・ 飛沫感染予防 = マスク着用・部屋の換気
 - ※ マスク着用によりウイルスを含んだ「飛沫」の発生を防ぐ
 - ※ 感染しても無症状で経過する人が3分の1以上存在するため、誰もが自分自身に症状がなくてもマスクがなければ感染力がある「飛沫」を出し他者に感染させる可能性があるという認識をもつことが必要
 - ※ 飛沫に加え、より小さな「エアロゾル」による感染伝搬を防ぐため、部屋の換気を適切に行う
- ・ 接触感染予防=手指衛生（流水と石鹸での手洗い・アルコールによる手指消毒）
 - ※ 環境消毒より手指衛生でウイルスの体内侵入を防ぐことが可能
- ・ クラスタなど感染が拡大した主要な感染経路は「飛沫感染」
 - ※ 飲食を伴った会話での感染がほとんど ← 黙食の重要性
- ・ 3密（密閉、密集、密接）の環境（1密でも危険） + マスクを着用していない = 感染リスクが最も高い状況
- ・ 症状が出た人は症状が出る前2日から他者への感染性あり
- ・ 感染力の強いオミクロン株でも、マスクの着用、距離の確保、手指消毒等の感染防止対策を徹底すれば、基本的に感染しない

■ 学校生活におけるマスク着用の考え方

- ・ マスクの着用は引き続き基本的な感染対策であり、人との距離（2m以上）や会話の有無により、メリハリをつけて着用（マスクを着用できればより安全であるが、外すことも賢く行う）
- ・ 気温・湿度や暑さ指数が高い日など、熱中症等の健康被害が発生するリスクがある場合においては、登下校時にマスクを外すなど、熱中症対策を優先

岐阜県教育委員会からの通知の一部です。感染対策の参考にしてください。

奉仕作業ありがとうございました

8月10日に、「株式会社 立保」の皆様による奉仕作業として「校門横の木伐採」と「校舎前排水路の清掃」をして頂きました。鬱蒼としていた校門横の大きな木を伐採して頂き、校門周辺が明るい雰囲気になり、運動場での子どもの活動も見えやすくなりました。また、排水路に溜まった土を出すことにより、流れが悪くなっていたのも解消されました。美しい学校になり、2学期を迎えることができ、本当に感謝しております。ありがとうございました。

ありがとうございました

